

旧スチイル記念学校

1860年代に、日本には世界中から宣教師がやってきた。1869年、アメリカ人ヘンリー・スタウト(1838~1912年)が1869年長崎に到着し、1873年にキリスト教の公式禁止令が解かれるまで、彼は英語を教え、私的に改宗し、1887年に完成したスチイル記念学校の原動力となった。スタウトは後に同校の初代校長となるアルバート・オルトマンズ(1854~1939年)の助力を得た。学校の名前は、米国のプロテスタント宣教会の会長であるウィリアム・H・スティー爾(1818~1905年)が亡くなった息子を偲んで資金を寄付したことにちなんで付けられた。男子校でほとんどの生徒が日本人だった。

東山手の9番にあったスチイル記念学校は長崎の東山手地区に設立された数あるキリスト教伝道学校の一つである。1897年には、東山手の17区画のうち13区画が、キリスト教系の学校か、その教師や宣教師の住居となっていた。それで東山手は外国人住民から一般的に「領事館の丘」と呼ばれていた。

1932年、スチイル記念学校は、東京に本部を置く大規模な学校のである明治学院の一部となったが、わずか一年後に閉鎖された。この建物は後にカトリック教の学校で使用された後、1973年にグラバー園に移された。

採用番号 NO :	023-011
-----------	---------